

大山隠岐国立公園の地形・景観

大山隠岐国立公園の最も顕著な特徴とは、多様な地形とそこに見られる生態系だろう。大山（1,729 m）、蒜山（1,202 m）、三瓶山（1,126 m）の山岳地域は火山活動により形作られたもので、山頂のいくつかは度重なる噴火でできた溶岩円頂丘が硬化してできたものである。その山腹は希少な高山植物を守るブナ原生林に覆われている。蒜山高原と三瓶山、船上山（615 m）の麓では、毎年恒例の野焼きが長年行われており、これによって草原が維持されている。この草原は絶滅危惧種の生育地となっている。湖もまた山を形作るものの一部であり、火山クレーターのくぼみに雨水と雪解け水が集まってできたものである。

島根半島と海岸地域に向かうと、北風と日本海の荒波により浸食され、複雑な形状で穴の開いた火山岩のリアス式海岸が見られる。入り組んだ海岸の下方には、幻想的な形の手蝕洞や小島が点在する。

隠岐諸島は地質学・生態学研究者にとっては仮想タイムカプセルのようなものだ。600 万年から 550 万年前の間に活発であったふたつの超火山により作られた島々は、海拔の上昇と下降にしたがって本州とつながっていた期間が何度かある。この間、動植物は互いに行き来していた。現在も独自に進化してきた固有種や亜種が存在している。大地の成り立ち、独自の生態系、人の営みが壮大であることから、隠岐諸島は 2015 年にユネスコ世界ジオパークに指定された。